

IFAC加盟各団体の専務理事 戦略フォーラム報告

2015年3月2日、3日に、ニューヨークの国際会計士連盟（IFAC）において、IFAC加盟各団体（約60団体）の専務理事（Chief Executive）による第13回年次戦略フォーラムが開催され、IFACの将来戦略（「将来への対応力あるIFACを構想する：Shaping a Future-Ready IFAC」）を主題として活発な議論が行われた。

1 議論に先立っての説明・講演

今回のフォーラムは、今後、IFAC理事会が2016年－2018年の戦略を練るに際して、参加者より参考意見を求めることに焦点を当てていた。

会議の冒頭、IFAC専務理事からは、これまでの重要課題に関する進捗報告として、基準設定主体運営の独立性に関する懸念の払拭に関する手当や、拡大しつつある監督機関の関与への対応を進めていること、そして、従来から議論されてきた国際公会計基準審議会（IPSASB）のモニタリング・監視については、IFACの下での独立した組織が実施する方向で検討を進めようとしていること等の説明があった。

また、戦略検討に先立ち、ゲスト

スピーカーの未来学者のジェームズ・キャントン博士（元Apple Computer役員）より、グローバルなビジネスを形成する将来の動向についての考察が披露された。講演では、我々が加速化された従来の基準を打ち砕くような破壊的な変化の時代に生きていること、そして、その変化は、技術や人口、そして、政治を結び合わせた変化であることが強調された。博士は、これからの世界を「未来の市場は、革新によって主導され、常時休むことがなく、非常に激しい競争にさらされている上に、モバイル対応が標準となり、グローバルに結びついている」、「未来の企業は、イノベーション文化と共に、戦略面で敏捷に反応して将来に備え、未来を予測しながら、その上でデータを媒体として、あらゆるものの相互の接続性自体を収益に結びつける」とも描写している。

2 IFACと会計士を取り囲む環境に影響する動向の検討

参加者は、グループ討議や全体討議を通じて、会計士とIFACそれぞれを取り囲む環境に影響を与えるマクロ的な今後の動向に関する考えを

述べ、規制に関する状況を協議の上、IFACが焦点を当てるべき事項に関して重要度を検討した。

討議においては、情報通信技術（ICT）に関する今後の動向が、業務のあり方を通じてプロフェッショナル全体に、また、IFACのみならず加盟団体それぞれの役割に大きな影響を与えようとする向きの意見の多さが目立った。加えて、最近の欧州等における情勢を反映して、規制の動向に懸念を示す参加者が多かった。

グループ討議の結果として、「影響大」として上位に評価された動向は、それぞれ次頁の図表のとおりであった。

全体での討議では、このような動向に関する評価を反映して、IFACには会員組織を代表する機関としての積極的な行動が必要で、国際的な組織として規制や評価・信頼性の向上等に関して働きかけるのならば、その効果は大きいとの評価が大勢を占めた。一方、それゆえに、IFACには加盟団体のみでは難しい、IFACにしか果たせない機能を役割として担ってほしいとの意見も多数寄せられた。また、組織内会計士等との一体感の醸成、教育やプロフェッショ

会計士としてのプロフェッション全体に影響を与える動向
1. 情報通信技術 (ICT)
2. プロフェッションの評判・信頼性
3. 魅力の理解
4. 規制のあり方
5. 教育制度とその妥当性確保

IFACに影響を与える動向
1. プロフェッションの評判・信頼性
2. 規制のあり方
3. 情報通信技術 (ICT)
4. 説明責任
5. 魅力の理解とその妥当性確保

ン全体の魅力向上等についても、興味の高さがうかがわれた。

なお、議論のプロセスにおいて、プロフェッションを目指す新たな人材の確保は重要なが、特に、米州・欧州の主要国においては、すでに、有能な会計士として活躍している人材の維持・確保がより大きな問題で切実であるとの参加者からの説明に、共有する状況は一部あるものの、彼

私の差を感じる場所があった。

本フォーラムでは、これらの議論に基づく前提を、今後、理事会とその計画・財政委員会における議論の基礎とする旨説明があった。議論はこれからの理事会・委員会においてさらに継続され、2015年11月の総会において計画が提示される予定である。

(専務理事 海野 正)